

2020年8月28日 第3333回例会

於：メルキュールホテル横須賀『パリ』



- <点鐘・開会> 12:30 岡田 会長
<斉唱> 「それこそロータリー」
<ゲスト紹介> *NPO法人こどもの夢サポートセンター 理事長 鈴木 明 様
副理事長 石渡 美智子 様
*株式会社 MAYALU 代表取締役 Wosti Loknath 様

- <会長報告> *第2回理事会役員会 報告
*ガバナー事務所より
・第3回インター・ローターアクト委員会開催のご案内について
9月12日(土) 13:00~15:00 於：第一相澤ビル8階「会議室」
・2020-21年度青少年交換プログラム募集内容の変更について
・クラブ活動状況アンケート調査ご協力のお願について
・IAC ZOOMミーティング導入に関する願について

- <委員長報告> *米山奨学委員会 福西委員長より米山奨学セミナー 報告
*佐久間米山カウンセラーより米山奨学生カウンセラー研修会 報告

- <幹事報告> *新会員セミナーの開催について(例会後)

- <出席報告> *出席委員会 小林(-)委員長より8月28日の出席報告

会員数	出席対象者数	出席数(ZOOM出席数)	欠席数	メックアップ数	出席率
115名	104名	78名(9名)	26名	4名	78.85%

<ニコニコ報告>

- ・三 役 NPO法人子供の夢サポートセンター代表 鈴木 明様、ようこそお出でくださいました。卓話よろしくお願いたします。
- ・猿丸、畑、田中、福西、高橋、梁井、大竹、田邊、勝間、杵淵、植田、徳永、飯塚、小林(-)、前川、藤村、前田、江沢、齋藤 各会員
NPO法人子供の夢サポートセンター代表 鈴木明様 本日の卓話ありがとうございます。横須賀の子供たちの現状をしっかり勉強させていただきます。
- ・野坂、齋藤 両会員 入会月祝いとして
- ・岡田、松本、後藤、田村、八木、小平、山田、中山、福西、上林、高橋、波島、加藤、石田、鈴木、小山、鈴木、鈴木、佐久間、田邊、渡邊、勝間、鷺尾、瀬戸、吉田、澤田、加藤、若麻績、加賀本、植田、小山、谷、立石、長尾、齋藤、三堀、西村、齋藤、齋藤 各会員
三浦学苑硬式野球部、軟式野球部揃って4強おめでとうございます。お疲れ様でした。この勢いで来年の快進撃を楽しみにしています。
- ・高橋 会員 皆さんの期待に沿えずベスト4で終わってしまいました。来年は更に上を目指します。
- ・飯塚 会員 織茂会員、神奈川新聞に掲載され、長年ご苦労様でした。
- ・大石、小保内、上林、北村、石田、角井、齋藤 各会員
人種差別への大阪なおみ選手の勇気ある行動に拍手！準決勝、優勝を目指し頑張ってください。
- ・木村、角井 両会員 佐藤琢磨インディー500優勝おめでとう。

<卓話> 「横須賀の子どもたちの状況」

NPO法人こどもの夢サポートセンター

皆さんこんにちは。NPO法人こどもの夢サポートセンターの鈴木明です。今日はこの様な素敵な会でお話しできる事をうれしく思っております。

ここに私が立っているのは、以前にソロプチミストさんの会合がありまして、その席で会長さんと同席させて頂き、その時に我々の話もさせて頂き会長さんの方から何か機会あったら協力させて頂きますと言われ今日に至ったと思えます。

コロナ禍の中で、学校はどうなっているのだろうか？高校野球が中止になり、色々な子供たちが楽しみにしている事が小学校、中学校、高校の生徒も同じような事を味あわされているのをつくづく感じています

私は小学校の学校評議員をやっているのですが、校長先生に何か私どもで出来る事はありますか？何が一番大変ですか？と尋ねたところ、教員が毎日授業の終わった後、本来なら次の日の授業の準備をする時間に教室やトイレを掃除しなきゃいけないのがきついなあとと言われていました。そんな中で学校では入学式が縮小されたり、二か月間全く勉強が行われていない、遅れを取り戻す事が出来るのか？学力もガタ落ちしてしまうのを危惧しています。また子供たちが楽しみにしている部活動も出来ていないし、小学校は運動会の中止、中学校は秋に行う運動会も父兄は一人だけ。私が一番つらいなと思っているのは、中学3年の修学旅行が横須賀市では中止になった事です。中学校の思い出の修学旅行が無くなりましたが、これを起爆剤にして人生の良い経験になればいいなと思っています。何か出来る事があればいいなと思っているのですが、学校に入る事さえできないのでなかなか支援できないのが現状です。

さて、子供たちの勉強や生活、横須賀の子供たちはどんな様子かと言う事何ですが、学力学習状況調査から話をしたいと思います。対象は小6と中3でその結果なのですが、小学校の国語と算数の正答率がどれ位なのかというと国語が56、算数が63です。全国の平均は国語が63.8、算数が66.6です。特に、国語の落ちがすごい、他の教科でも全国レベルよりも落ちています。現場では学力を上げるために努力をしているのですが、中々成果が出ていないのが実態です。この調査では、生活面でのアンケート形式で調査が行われています。この中には、90%以上の肯定的な結果も出ています。「朝食を毎日食べている」「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」「学校のきまりを守っている」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「国語の勉強は大切だと思う」「算数の勉強は大切だと思う」

逆に、課題だと思われる点は「難しい事でも失敗を恐れなくて挑戦している」「家で自分で計画を立てて勉強している」これが10ポイント以上、下がっているのです。

「読書が好きである」時代の流れで他から情報を得ているのかもしれませんが、やはり全国と比べると読書量が少ないと言われていました。

「今住んでいる地域の行事に参加している」参加している割合が非常に少ない。個人的には町内会の副会長をしているのですが、地域の中で子供を育て地域で大切にすれば、いつか子供たちが地域を大切にする事に繋がっていくのではないかと考えています。

勉強の必要性は分かっているのだけど自分で計画的に出来ない、生活の方でも地域の行事に入っていく子供が少ない。



中学校を見てみると英語は全国レベル、横須賀の子は、英語は出来るのです。特に、中学2年生は全国レベルを上回る程です。横須賀の教育委員会が力を入れて各学校にネイティブの先生を入れたり、横須賀の良いところの特徴と言えるでしょう。国語と数学は全国より低いですが、小学校と比べて全国との差は縮まって来ています。生活状況は、学校の規則を守っていて、学校が荒れていると聞いた事はないです。私は色々な学校に行くのですが、校内は綺麗だし、お客様にもちゃんと挨拶が出来て良く育てられているといつも思っています。校内暴力などはここ何年か聞いた事はありません。それから、いじめはどんな理由があってもいけないと90%以上の子供たちが思っています。全国と比較して良いところ、特に英語なのですけれど、「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思う」など横須賀の生徒の特徴と言えるでしょう。また、小学校と同じように自分で計画を立てて勉強するのは得意ではなく、読書量が足りず、本を読まないようです。

二つ目にお話しさせて頂きたいのがいじめで、平成30年度の資料を見て頂きたいのですが、小中の合計で1041件、平成28年度には404件、二年ほどで倍になっています。その間にいじめ防止対策推進法が出来ていじめの定義が細かくなったので、急に増えたわけではなく実際には同じような数字になると思います。1000人当たりの数字に直すと37.3、全国では54.2で、横須賀はいじめが少ないと認識できると思われます。どういういじめがあるかと言いますと、一番多いのが冷やかしかからかい、悪口、脅し文句、中学校では105件、小学校では494件で、表の⑤⑥⑦⑧番は数字が太く記されていると思いますが、これは小学校と中学校を比較してもらうためにしており、見かけでは分からないいじめです。実は、これが一番の課題です。件数は少ないですが、おそらく横須賀だけではないと思います。中学校で一番気にしているのがスマホを使ったいじめで、要するにLineやSNSを使って発信してしまう。こういうのがかなりあるのです。今日お話しする中でも、ある会場で中学3年の女の子が男の子の写真を撮って会場の様子をSNSに発信をしたのです。そうしたら、その男の子がそれ以来、来なくなってしまいました。それで、その様な事は止めようと全部の会場で話をしています。学校の中では、スマホ関係のいじめはかなりあるのではないのでしょうか。ただ、全国的には横須賀のいじめは少ないです。もう一つ不登校の関係ですが、横須賀は少し多いです。中学校で大体500位います。その中には学校までたどり着くけど教室に入らない、学校に行けない。横須賀の学校全部に、教室に入れない子たちの部屋を作りました。そこに先生を一人入れて頂いています。でも、なかなか教室に入らない。いじめがあるから学校に来ない子は少ないです。不登校の原因ですが、殆どが家庭の状況で行けないとか、いじめではないけれども友達とのトラブルで顔を合わせられない、それから学業の不振、これが横須賀の状況です。

それから、私どもは今まで話して来た子たちを一人でも救いたい、家庭や学校では出来ない、私たちNPOなら出来る事をいつも探しています。だから、横須賀の子たちの生活と学習が取り組みの基盤になっているのです。頑張って5年になりました。スタッフも退職した教員で、教育のノウハウも沢山持っていて、死ぬまで横須賀に恩返しで子供のためにやりたい人だけ来てもらっています。だから、皆凄くやる気があります。70を超えている人も沢山いるのですが、40代50代の人たちのような感覚を持っています。

そして、約40名のスタッフがいて殆どが教員経験者です。小学校1、2年生の放課後の面倒を見ています。学童保育と違い、ただ預かるだけではなくもっと素敵で楽しい午後作ってあげる、学校では出来ない、でもNPOなら出来ると思います。具体的に言うと宇宙に向かっていく話をしたり、JAXAと打ち合わせをしたり、県立の海洋高校と提携して海を綺麗にしたりする事を小学1年生2年生と一緒に勉強したりしています。学校ではなかなか出来ないそんなことをやったり、あるいは障害のある人の立場に立って手話を勉強したり、遊ぶ時はスポーツチャンバラなど思い切り遊ぶ、そんな事をやっています。よく親御さんから無料でいいのですかと言われます。ずっと続けたいなど。

それから、横須賀にはおそらく3000人位の引きこもりの方がいます。私も先週一軒引きこもりの方の家に行ったのですが、数年間は掃除していないであろう部屋で、お会いしてみると風体は1年くらい床屋にも行ってないようだし、顔色も悪いので、色々考えながら食べ物は大丈夫ですか？と尋ねると、お兄さんがたまに来てくれて、先週も卵を1パックと豆腐を持って来てくれたと。卵は焼いて食べるのですか？と聞いてみると、調理はしないので生でそのまま食べるとの事、これは食糧支援からしなければと思いました。いつかこの人が生活保護に頼らず一緒に街を歩けたら良いな、そういう願いでやっています。すごく厳しい仕事なのですが、何年かかってもこの人達を助けたい、そんな気持ちでやっています。

それから、生活保護を受ける方よりは少しレベルの高い家庭状況で塾に行くにはお金がない、でも昼間の高校に行きたい、そういう子を引き受けています。その子の受験勉強をみています。今市内に5か所ありまして、大体一つの教室に7人から10人位来ていて、週一回、八月は週二回、一日2時間で英語1時間、数学1時間、普通の塾と比べると短いのですが二人の生徒に一人の先生がついて少人数で子供は何でも質問が出来る、とても勉強の出来る子もいますし、中学1年から勉強している子もいます。これまでに数百人の生徒を教えていて90数%は昼間の学校に入れていきます。

ここで厳しいのが貧困の問題で5人に1人とか6人に1人とかいっていますが、実際に見てくれでは分からない、実際に教えていると分かってくる事があります。冬の寒い雨の日に授業が終わった後、ある生徒にバスで帰らないのかと聞くと、慣れてるからと40分の道のりを歩いて帰って行きました。ある時は、授業を週2日にしてあげようかと話をすると、女の子が週1日で時間を長くしてもらえないかと相談に来ました。最初私も分からなかったのですが、2回来るだけの交通費が無かったのだと思います。

また、中学三年生ですから進路を決定しなければならない。学校には言いにくいからと私どもに相談に来ます。子供たちがこの学校に行きたいと言って勉強して来て、受ければ受かるレベルにあるのに私どものところに来る子たちは絶対に受かる子でなければ2段階位入りやすい公立高校を受けています。もし落ちたら私立の滑り止めなど行けないし、もし落ちたら行く高校が無いからです。ですから、受かるところ一本で行くという事からも貧困が見えてきます。

こういった活動の中では、色々な方々からの支援を頂いています。実はメルキュールホテルさんからも軽食の支援を頂いています。また商工会議所女性会とか市内の教会から支援を頂いて、パン又はおにぎりや飲み物を提供しています。それを食べて子供たちがすごく喜んで元気になり、その時間を楽しみに来る子もいるのです。そして、宿題も出せません。前に宿題を出したことが有るのですがやってこない、何故宿題をやるのかと聞いてみると家で勉強できる雰囲気ではないと。そんなところにも貧困が見えてきます。

ありがとうございました。

<閉会・点鐘> 13:30 岡田 会長

週報担当 木村 一郎